

Sun Server X3-2 (旧 Sun Fire X4170 M3)

VMware ESXi インストールガイド



Part No: E35501-01
2012年9月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
最新のソフトウェアとファームウェアの入手	5
このドキュメントについて	6
関連ドキュメント	6
フィードバック	6
サポートとアクセシビリティ	7
VMware ESXi のインストールについて	9
関連情報	9
VMware ESXi のインストールタスクマップ	10
サポートされている VMware ESXi ソフトウェア	11
コンソール表示オプションの選択	11
ブートメディアオプションの選択	13
インストール先オプションの選択	16
VMware ESXi のインストールオプション	17
VMware ESXi のインストール準備	19
BIOS の設定	19
ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたは サーバーハードウェアの構成	24
RAID の構成	26
VMware ESXi のインストール	27
準備作業	27
メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール	28
VMware ESXi のインストール後タスク	33
ネットワークアダプタ設定の構成	33
接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスの確認	35
VMware ESXi ソフトウェアの更新	36
VMware ESXi リソースの管理	36
ネットワークインタフェースの構成	37
NIC コネクタ	37

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手	39
ファームウェアとソフトウェアのアップデート	39
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション	40
入手可能なソフトウェアリリースパッケージ	40
ファームウェアとソフトウェアへのアクセス	42
更新のインストール	46
索引	49

このドキュメントの使用方法

このインストールガイドでは、VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順と、Oracle の Sun Server X3-2 を構成および使用できる状態にするためのソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

注 – Sun Server X3-2 は以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このドキュメントは、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについての経験を持つユーザーを対象としています。

このセクションでは、最新のソフトウェアとファームウェア、ドキュメントとフィードバック、およびサポートとアクセシビリティ情報の入手方法を説明します。

- 5 ページの「最新のソフトウェアとファームウェアの入手」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「関連ドキュメント」
- 6 ページの「フィードバック」
- 7 ページの「サポートとアクセシビリティ」

最新のソフトウェアとファームウェアの入手

各 Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシ用のファームウェア、ドライバ、その他のハードウェア関連ソフトウェアは定期的に更新されます。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant – Oracle x86 サーバーの出荷時にインストール済みの新規オプションです。必要なすべてのツールとドライバが含まれており、サーバーに組み込まれています。
- My Oracle Support: <http://support.oracle.com>

- 物理メディアの申請

詳細は、39 ページの「サーバーファームウェアとソフトウェアの入手」を参照してください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は(オンラインヘルプと同様の)トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、セクション番号はありません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF 版を生成するには、HTML ページの左上隅にある PDF ボタンをクリックします。

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle ドキュメント	http://www.oracle.com/documentation
Sun Server X3-2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31
Oracle Hardware Management Pack 2.2	http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp

フィードバック

次のサイトでこのドキュメントについてのフィードバックをお送りいただけます:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

サポートとアクセシビリティ

説明	リンク
My Oracle Support を通じた電子的なサポートへのアクセス	http://support.oracle.com 聴覚障害の方へ: http://www.oracle.com/accessibility/support.html
アクセシビリティに対する Oracle のコミットメントについて	http://www.oracle.com/us/corporate/accessibility/index.html

VMware ESXi のインストールについて

注 - サーバーは以前は Sun Fire X4170 M3 サーバーという名前でした。この旧名がまだソフトウェアに表示されている場合があります。新しい製品名は、システム機能の変更を示すものではありません。

このセクションでは、VMware ESXi をサーバーにインストールする手順の概要を説明します。

説明	リンク
VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順について学習します。	10 ページの「VMware ESXi のインストールタスクマップ」
サポートされている VMware ESXi ソフトウェアのバージョンについて学習します。	11 ページの「サポートされている VMware ESXi ソフトウェア」
コンソール表示オプションとそれらの設定方法について学習します。	11 ページの「コンソール表示オプションの選択」
ブートメディアオプションとそれらの設定方法について学習します。	13 ページの「ブートメディアオプションの選択」
インストール先オプションとそれらの設定方法について学習します。	16 ページの「インストール先オプションの選択」
VMware ESXi のインストールオプションについて学習します。	17 ページの「VMware ESXi のインストールオプション」

関連情報

- [27 ページの「VMware ESXi のインストール」](#)

VMware ESXi のインストールタスクマップ

次の表では、VMware ESXi ソフトウェアのインストール手順について説明します。

手順	説明	リンク
1.	サーバーハードウェアを設置し、Oracle ILOM サービスプロセッサを構成します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『設置』、「サーバーのラックへの設置」 ■ 『設置』、「サーバーの配線」 ■ 『設置』、「Oracle ILOM への接続」
2.	VMware ESXi インストールメディアとドキュメントを入手します。このドキュメントは、手順 7 と 8 で説明するインストール手順およびインストール後手順と一緒に使用することをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none"> ■ VMware ESXi インストールプログラムの ISO イメージは、次の Web サイトからダウンロードできます:http://www.vmware.com/download ■ VMware ESXi のリリースノートは、次の Web サイトからダウンロードできます: http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vccenter-server-pubs.html
3.	サーバーの『ご使用にあたって』を確認します。	『Sun Server X3-2 プロダクトノート』: http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2
4.	インストールの実行時に使用するコンソール、メディア、インストール先を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 11 ページの「コンソール表示オプションの選択」 ■ 13 ページの「ブートメディアオプションの選択」 ■ 16 ページの「インストール先オプションの選択」
5.	OS の新規インストール時の BIOS 設定を確認します。	20 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」
6.	ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。	24 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」。
7.	VMware ESXi ソフトウェアをインストールします。	28 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」
8.	インストール後のタスクを適宜実行します。	33 ページの「VMware ESXi のインストール後タスク」

関連情報

- 19 ページの「VMware ESXi のインストール準備」

サポートされている VMware ESXi ソフトウェア

サーバーは、次の VMware ESXi ソフトウェアをサポートしています。

VMware ソフトウェア	版
VMware ESXi	5.0 および 5.0 Update 1

さらに、サポートされているその他のオペレーティングシステムや仮想マシンをサーバーにインストールすることもできます。サーバーでサポートされているオペレーティングシステムの完全な一覧については、最新バージョンの『Sun Server X3-2 プロダクトノート』(<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=SunServerX3-2>)を参照して更新情報を確認してください。

関連情報

- 27 ページの「VMware ESXi のインストール」

コンソール表示オプションの選択

このセクションでは、インストールを実行するためにコンソールを接続するオプションについて説明します。

- 11 ページの「コンソール表示オプション」
- 12 ページの「ローカルコンソールを設定する」
- 12 ページの「リモートコンソールを設定する」

コンソール表示オプション

ローカルコンソールをサーバーのサービスプロセッサ (SP) に直接接続することにより、OS のインストールやサーバーの管理を実行できます。サーバーでは、2 種類のローカルコンソールをサポートしています。

- シリアル管理ポート (SER MGT) に接続された端末
端末を、ポートに直接接続することも、ポートに直接接続した端末エミュレータに接続することもできます。
- ビデオポート (VGA) と 2 つの背面 USB コネクタに直接接続した VGA モニター、USB キーボード、および USB マウス

サーバー SP へのネットワーク接続を確立することにより、リモートコンソールから OS のインストールやサーバーの管理を行うこともできます。2 種類のリモートコンソールがあります。

- Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続
- ネットワーク管理ポート (NET MGT) への SSH クライアント接続

▼ ローカルコンソールを設定する

- 1 ローカルコンソールに接続するには、次のいずれかを実行します。
 - 直接または端末エミュレータを介して、シリアル管理ポート (SER MGT) に端末を接続します。
 - VGA モニター、キーボード、およびマウスをビデオポート (VGA) および USB ポートに接続します。
- 2 シリアル管理ポート (SER MGT) 接続の場合のみ、ホストシリアルポートへの接続を確立するには:

a. Oracle ILOM のユーザー名およびパスワードを入力します。

b. Oracle ILOM プロンプトで、次を入力します。

-> **start /HOST/console**

シリアル管理ポート出力は、Linux ホストシリアルローカルコンソールに自動的にルーティングされます。

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ: <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

▼ リモートコンソールを設定する

- 1 サーバー SP の IP アドレスを表示または設定します。
詳細は、『設置』、「サーバー SP の IP アドレスの確認」を参照してください。
- 2 Web ベースのクライアント接続を使用している場合は、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. Web ブラウザで、サーバー SP の IP アドレスを入力します。
 - b. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。

- c. **Oracle ILOM** リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから **Web** クライアントにリダイレクトします。
 - d. 必要に応じて、「**Devices**」メニューでデバイスのリダイレクト(マウス、キーボードなど)を有効にします。
- 3 **SSH** クライアント接続を使用している場合は、次の手順を実行します。
- a. シリアルコンソールから、サーバー **SP** への **SSH** 接続を確立します (`ssh root@hostname`。ここでは、`hostname` はサーバー **SP** の **DNS** 名または **IP** アドレス)。
 - b. **Oracle ILOM** にログインします。
 - c. 次を入力して、シリアル出力をサーバーから **SSH** クライアントにリダイレクトします:
-> `start /HOST/console`

参考 関連情報

- Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリ:<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31>

ブートメディアオプションの選択

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールを開始するには、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートします。このセクションでは、サポートされているメディアソースおよび各ソースの設定要件について説明します。

- 13 ページの「ブートメディアオプションの要件」
- 14 ページの「ローカルブートメディアオプションを設定する」
- 14 ページの「リモートブートメディアオプションを設定する」

ブートメディアオプションの要件

このセクションでは、ローカルおよびリモートメディアを使用するための要件について説明します。

- 14 ページの「ローカルブートメディアの要件」
- 14 ページの「リモートブートメディアの要件」

ローカルブートメディアの要件

ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外付けのストレージデバイスが必要です。

サポートされている OS のローカルブートメディアソースには、次のものがあります:

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- 該当する場合は、フロッピーデバイスドライバメディア

リモートブートメディアの要件

リモートメディアでは、ネットワークを介してインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、Pre-boot eXecution Environment (PXE) を使用してネットワーク上にインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。

サポートされている OS のリモートブートメディアソースには、次のものがあります。

- CD/DVD-ROM インストールメディア
- CD/DVD-ROM の ISO インストールイメージメディア
- 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要)

▼ ローカルブートメディアオプションを設定する

ローカルブートメディアを設定するには、この手順を実行します。

- 使用しているサーバーに組み込み型ストレージデバイスがない場合は、サーバーの前面または背面パネルに適切なストレージデバイスを接続します。
ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『設置』、「サーバーの配線」を参照してください。

▼ リモートブートメディアオプションを設定する

リモートの場所にあるメディアから OS をインストールするには、これらの手順を実行します。

- 1 リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、以下の手順を実行します。それ以外の場合は次の手順に進みます。
 - a. 次のように、ブートメディアを取り付けるかまたは挿入して、ブートメディアにアクセスできるようにします。

- **CD/DVD-ROM** の場合、内蔵または外付け CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージの場合、ネットワーク共有された場所で ISO イメージがすぐに利用できることを確認します。
- b. サーバー **Oracle ILOM SP** への **Web** ベースのクライアント接続を確立し、**Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションを起動します。
詳細は、11 ページの「**コンソール表示オプションの選択**」に示す Web ベースのクライアント接続に関するセットアップ要件を参照してください。
- c. **Oracle ILOM** リモートコンソールアプリケーションの「**Devices**」メニューで、次のようなブートメディアの場所を指定します:
- **CD/DVD-ROM** ブートメディアの場合は、「**CD-ROM**」を選択します。
 - **CD/DVD-ROM ISO** イメージブートメディアの場合は、「**CD-ROM Image**」を選択します。
 - フロッピーデバイスドライバブートメディアの場合は、「**Floppy**」を選択し
ます (該当する場合)。
 - フロッピーイメージのデバイスドライバブートメディアの場合は、「**Floppy
Image**」を選択します (該当する場合)。
- 2 **PXE** を使用してインストールを実行するには、次の手順を実行します。
- a. **PXE** ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを構成します。
- b. **OS** インストールメディアを **PXE** ブートで利用できるようにします。
自動 ESXi ソフトウェアインストールイメージを使用する場合は、自動 OS インストールイメージを作成して提供する必要があります。
インストールのセットアッププロセスを自動化する方法については、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できる ESXi 5 のインストールドキュメントを参照してください。
- c. インストールメディアをブートするには、一時ブートデバイスとして **PXE** ブートインタフェースカードを選択します。

インストール先オプションの選択

このセクションでは、インストール先を設定する方法について説明します。

- 16 ページの「インストール先のオプション」
- 17 ページの「ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する」
- 17 ページの「インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する」

インストール先のオプション

組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブ (Oracle System Assistant 用に予約されている) を除き、サーバーに取り付けたどのストレージドライブにもオペレーティングシステムをインストールできます。これらにはハードディスクドライブ (HDD) と半導体ドライブ (SSD) があります。

ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (HBA) を備えたサーバーでは、オペレーティングシステムを外付けの FC ストレージデバイスにインストールすることも選択できます。

重要: 内蔵の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブは、ブート用または保存用のドライブとしては使用しないでください。

サーバーは、組み込み型の Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを装備した状態で出荷されます。このドライブには、Oracle System Assistant、デバイスドライバ、および Oracle ILOM、BIOS、およびサポートされている IO デバイス用のファームウェアが含まれています。サポートされるすべてのオペレーティングシステムのインストール中に、この USB フラッシュドライブは、読み取り/書き込み可能な単一パーティションを持つ SCSI ディスクとして検出され、ドライブのリストに Oracle_SSM と表示されます。次の操作を実行するとき、このデバイスを上書きしないように注意してください。

- オペレーティングシステムのインストール
- ディスクまたはパーティションのフォーマット操作
- 一般的なディスク、パーティション、またはファイルシステムの保守

この USB フラッシュドライブが上書きされた場合でも、元の内容を復元できます。USB フラッシュドライブの内容を復元するには、Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージを取得し、このイメージを使用して復元処理を実行します。

Oracle System Assistant 復旧および ISO 更新イメージをダウンロードし、サーバーの Oracle System Assistant フラッシュドライブを復元する手順については、『管理』の「Oracle System Assistant の復元」を参照してください。

▼ ローカルストレージドライブ (HDD または SSD) をインストール先として設定する

- ハードディスクドライブ (HDD) または半導体ドライブ (SSD) が正しく取り付けられ、電源が入っていることを確認します。

HDD または SSD の取り付けと電源の投入方法については、『サービス』の「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。

▼ インストール先としてファイバチャネル Storage Area Network デバイスを設定する

- 1 サーバーに PCIe HBA が正しく取り付けられていることを確認します。
PCIe HBA オプションの設置方法については、『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」を参照してください。
- 2 Storage Area Network (SAN) をインストールおよび構成して、サーバーホストでストレージデバイスが認識されるようにします。
手順については、ファイバチャネル HBA 付属のドキュメントを参照してください。

VMware ESXi のインストールオプション

下の表では、単一サーバーのインストールオプションについて説明します。

オプション	説明
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一サーバーに ESXi ソフトウェアをインストールします。 <ul style="list-style-type: none"> ■ ローカル: ESXi のインストールはサーバー上でローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときにお勧めします。 ■ リモート: ESXi のインストールはリモートの場所から実行します。ESXi の手動インストールを実行するには、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用します。

サーバー 1 台構成のインストール方法

ESXi インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用して、要件にもっとも適したローカルまたはリモートの ESXi のインストールを選択します。

メディアの配布方法	その他の要件
ローカルでの CD/DVD ドライブの使用 - サーバーに接続した物理 CD/DVD ドライブを使用します。	モニター、USB キーボードおよびマウス、USB CD/DVD ドライブ、および ESXi 配布メディア。ローカルインストールの場合は、サーバーに直接接続されたローカルの CD/DVD ドライブを使用してインストールメディアを提供します。
リモートでの CD/DVD の ISO イメージの使用 - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上の、リダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブまたは DVD ISO イメージを使用します。	ブラウザを備えたリモートシステム、接続された物理 CD/DVD ドライブ、ESXi 配布メディア、およびサーバーの管理ポートへのネットワークアクセス。リモートインストールの場合は、リモートの CD/DVD USB デバイスまたは CD/DVD イメージを使用してインストールメディアを提供します。

VMware ESXi のインストール準備

これらのトピックでは、VMware ESXi のインストールのためにサーバーを準備する方法について説明します。

説明	リンク
BIOS の設定。	19 ページの「BIOS の設定」
ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。	24 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」
サーバーで RAID を構成します。	26 ページの「RAID の構成」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように BIOS 設定が構成されていることを確認するようにしてください。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- [20 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」](#)
- [22 ページの「レガシー BIOS と UEFI BIOS モードの切り替え」](#)

関連情報

- [28 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」](#)

▼ BIOS の出荷時デフォルトの確認

注-サーバーを新しく設置し、オペレーティングシステムをはじめてインストールした場合、通常BIOSはデフォルトに構成されていて、このタスクを実行する必要はありません。

BIOS 設定ユーティリティーでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。BIOS 設定ユーティリティー (F2 キー) で変更した設定はすべて、次回に設定変更するまで常時使用されます。

F2 キーを使用してシステムの BIOS 設定を表示または編集できるほか、BIOS の起動中に F8 キーを使用することで、一時ブートデバイスを指定できます。F8 キーを使用して一時ブートデバイスを設定した場合、この変更は現在のシステムブートのみで有効です。一時ブートデバイスでブートしたあとは、F2 キーで指定した常時ブートデバイスが有効になります。

始める前に 次の要件が満たされていることを確認します。

- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) が搭載されている。
- HDD または SSD がサーバーに適切に設置されている。詳細な手順については、『サービス』、「ストレージドライブの保守 (CRU)」を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されている。詳細は、[11 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。

1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」>「Power Control」をクリックし、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLI で、プロンプトから次のコマンドを入力します。
-> `reset /System`

BIOS 画面が表示されます。



- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、**F2**を押して**BIOS 設定ユーティリティー**にアクセスします。
しばらくすると、**BIOS 設定ユーティリティー**が表示されます。
- 3 出荷時のデフォルト値に設定するために、次を実行します。
 - a. **F9**を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。
メッセージが表示され、「**OK**」を選択してこの操作を続けるか、「**CANCEL**」を選択してこの操作を取り消すよう指示されます。
 - b. メッセージで「**OK**」を強調表示して、**Enter**を押します。
BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時間の欄の最初の値でカーソルが強調表示されます。
- 4 **BIOS 設定ユーティリティー**で次の手順を実行して、システム時間またはシステム日付に関する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。
上下の矢印キーを使用して、システムの時間と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示された欄の値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス(+)を押すと、表示されている現在の値が増加します
 - マイナス(-)を使用すると、現在表示されている値が減少します
 - **Enter**を押すと、カーソルが次の値の欄に移動します
- 5 ブート設定にアクセスするには、「**Boot**」メニューを選択します。
「**Boot**」メニューが表示されます。

- 6 「**Boot Settings**」メニューで、下矢印キーを使用して「**Boot Device Priority**」を選択し、**Enter**を押します。

「**Boot Device Priority**」メニューが表示され、認識されているブートデバイスの優先順位が示されます。リストの先頭のデバイスが、ブートの優先度がもっとも高いデバイスです。

- 7 「**Boot Device Priority**」メニューで次を実行して、リストの最初のブートデバイスエントリを編集します。
 - a. 上下矢印キーを使用してリストの先頭のデバイスを選択し、**Enter**を押します。
 - b. 「**Options**」メニューで、上下矢印キーを使用してデフォルトの常時ブートデバイスを選択し、**Enter**を押します。

注-変更する各デバイス項目に対して手順7aおよび7bを繰り返して、リスト内のほかのデバイスのブート順を変更できます。

「**Boot Device Priority**」リストおよび「**Options**」メニューに表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品ID文字列の形式です

- 8 変更を保存してBIOS設定ユーティリティーを終了するには、**F10**を押します。
または、「**Save & Exit**」メニューで「**Save and Reset**」を選択して変更を保存し、BIOS設定ユーティリティーを終了することもできます。変更を保存して設定を終了することを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「**OK**」を選択して、**Enter**を押します。

注-Oracle ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10はローカルOSにトラップされます。このため、リモートコンソールアプリケーションの上部にある「**Keyboard**」ドロップダウンメニューから「**F10**」オプションを使用する必要があります。

▼ レガシー BIOS と UEFI BIOS モードの切り替え

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) の両方をサポートしています。デフォルトの設定はレガシー BIOS です。VMware ESXi 5.0 はレガシー BIOS と UEFI BIOS の両方をサポートしているので、インストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。

注 - VMWare ESXi 仮想マシンソフトウェアをインストールしたあとで、レガシー BIOS から UEFI BIOS (またはその反対) に切り替えることにした場合は、ソフトウェアを再インストールする必要があります。

- 1 サーバーをリセットするか、サーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを押して (約 1 秒) サーバーの電源を切断し、次にもう一度電源ボタンを押してサーバーの電源を投入します。
- Oracle ILOM Web インタフェースで、「Host Management」>「Power Control」を選択し、「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLI で、プロンプトから次のコマンドを入力します。

```
-> reset /System
```

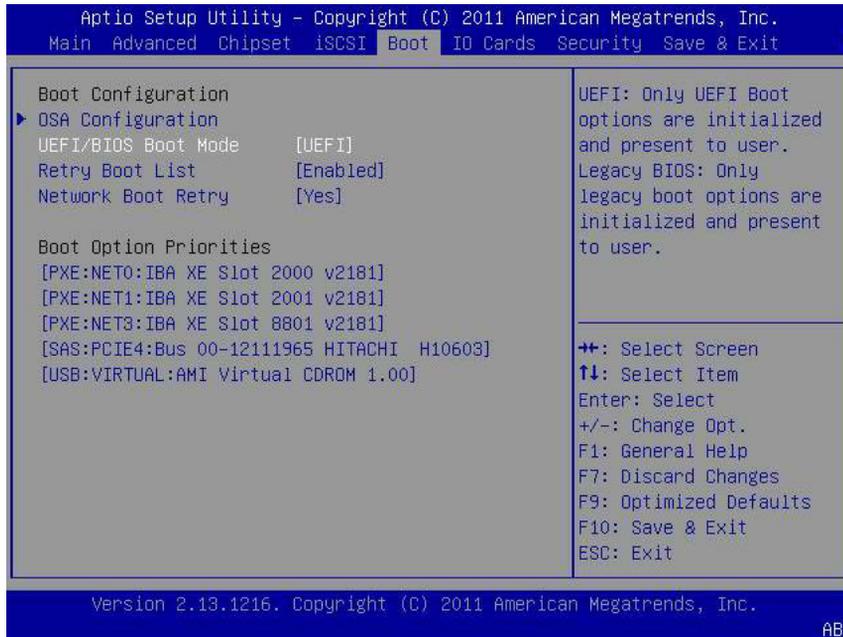
BIOS 画面が表示されます。



- 2 BIOS 画面でプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

しばらくすると、BIOS 設定ユーティリティが表示されます。

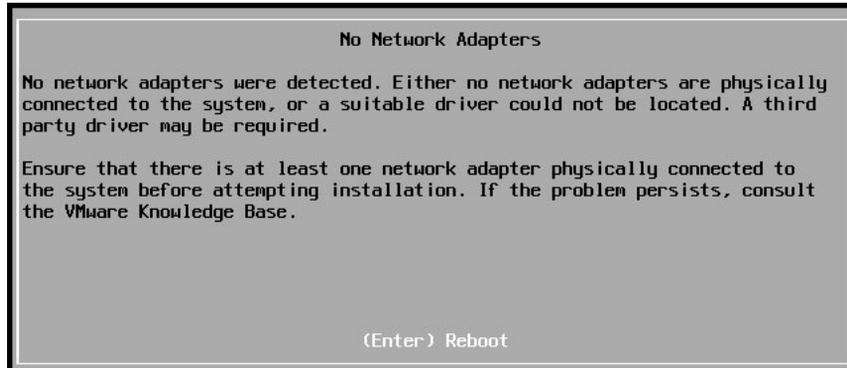
- 3 BIOS 設定ユーティリティーで、上部のメニューバーから「Boot」を選択します。
「Boot」メニュー画面が表示されます。



- 4 「UEFI/BIOS Boot Mode」フィールドを選択し、+/- キーを使用して、レガシー BIOS または UEFI の目的のモードに設定を切り替えます。
- 5 変更を保存して BIOS を終了するには、F10 キーを押します。

ネットワーク接続をサポートするためのVMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成

VMware ESXi 5.0 および 5.0 Update 1 仮想マシンソフトウェアのダウンロード ISO イメージにはサーバー内蔵のネットワークアダプタ用のドライバが含まれていないため、このイメージはサーバーにインストールされません。必要なドライバがない場合、ESXi 5.0 および 5.0 Update 1 インストールプログラムは利用可能なネットワーク接続の検出に失敗し、次の情報メッセージを表示して終了します。



したがって、ESXi 5.0 または 5.0 Update 1 ソフトウェアをインストールする前に、次のいずれかを実行する必要があります。

- 必要なドライバを ESXi インストール ISO イメージに追加する。
必要なドライバを ESXi ISO イメージに追加する手順については、[25 ページ](#)の「[ESXi ISO インストールイメージへの必要なドライバの追加](#)」を参照してください
- 標準のダウンロード ESXi 5.0 または 5.0 Update 1 ISO イメージと互換性のあるネットワークインタフェースカード (NIC) をサーバーに取り付けます。
互換性のある NIC カードの確認および取り付け手順については、[26 ページ](#)の「[互換性のあるネットワークインタフェースカードのサーバーへの取り付け](#)」を参照してください

ESXi ISO インストールイメージへの必要なドライバの追加

オフラインの保管場所にある ZIP ファイルを使用して、ドライバを ESXi インストール ISO イメージに追加します。カスタマイズした ESXi インストール ISO イメージにオフラインの保管場所にある ZIP ファイルを組み込む手順については、vSphere 5 のドキュメントのトピック「[vSphere ESXi Image Builder CLI の使用](#)」(http://pubs.vmware.com/vsphere-50/topic/com.vmware.vsphere.install.doc_50/GUID-78CC6C2E-E961-4A5E-B07D-0CE7083DE51E.html) を参照してください。

My Oracle Support または VMware のダウンロード Web サイトから必要なドライバをダウンロードできます。

- 必要なドライバを My Oracle Support からダウンロードする手順については、[39 ページ](#)の「[サーバーファームウェアとソフトウェアの入手](#)」を参照してください。

- 必要なドライバを VMware の Web サイトからダウンロードする手順については、http://downloads.vmware.com/d/details/dt_esxi50_intel_x540_t2ixgbe3_6_5/dCV0YnRod2pidGVkZA==を参照してください。

互換性のあるネットワークインタフェースカードのサーバーへの取り付け

変更されていない ESXi インストール ISO イメージと互換性がある NIC を入手し、サーバーの背面にある使用可能な外部 PCIe スロット (スロット1、2、または3) のいずれかに取り付ける必要があります。

互換性のある NIC カードを確認するには、<http://www.vmware.com/resources/compatibility/search.php> の VMware ハードウェア互換性リスト (HCL) を参照してください。

NIC カードをサーバーに取り付ける手順については、NIC カードに付属の取付説明書、および『サービス』、「PCIe カードの保守 (CRU)」に記載されている PCIe ライザーとカードの保守手順を参照してください。

RAID の構成

RAID を使用する場合は、VMware ESXi をインストールする前にサーバー上で RAID を構成する必要があります。RAID を構成する手順については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

関連情報

- 『管理』、「RAID の構成」

VMware ESXi のインストール

このセクションでは、VMware ESXi をサーバーにインストールする手順について説明します。

説明	リンク
プリインストール要件	27 ページの「準備作業」
メディアによる単一のサーバーへの VMware ESXi ソフトウェアのインストール。	28 ページの「メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール」

準備作業

次の要件が満たされていることを確認します。

- RAID (Redundant Array of Independent Disks) をサーバーのストレージドライブ上で構成する場合は、VMware ESXi をインストールする前にそれを行う必要があります。RAID の構成の詳細については、『設置』、「RAID の構成」を参照してください。

注-サーバーに Sun Storage 6 Gb SAS PCIe RAID 内蔵 HBA (SGX-SAS6-R-INT-Z) が搭載されている場合は、VMware ESXi をインストールする前に RAID ボリュームを作成してそれをブート可能にする必要があります。そうしないと、HBA がサーバーのストレージドライブを特定できなくなります。

- コンソール用ディスプレイオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順についての詳細は、[11 ページの「コンソール表示オプションの選択」](#)を参照してください。
- ブートメディアオプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順についての詳細は、[13 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。
- インストール先オプションは、インストールの実行前に選択および設定するようにしてください。このオプションと設定手順についての詳細は、[16 ページの「インストール先オプションの選択」](#)を参照してください。

- BIOS 設定がデフォルトに設定されていることを確認します。BIOS 設定を確認し、必要に応じて BIOS 設定を実行する方法の詳細は、20 ページの「BIOS の出荷時デフォルトの確認」を参照してください。
- ネットワーク接続をサポートするように VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアを構成します。手順については、24 ページの「ネットワーク接続をサポートするための VMware ESXi ソフトウェアまたはサーバーハードウェアの構成」を参照してください。
- ローカルインストールの場合は、プロンプトが表示されたら、接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに ESXi のインストールメディアを挿入します。
- リモートインストールの場合は、Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに ESXi のインストールメディアを挿入します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM」を選択していることを確認します。
- ESXi イメージを使用している場合、Oracle ILOM リモートコンソールシステムからその ESXi ISO イメージにアクセスできることを確認します。Oracle ILOM リモートコンソールシステムの「Devices」メニューで「CD-ROM Image」を選択していることを確認します。
- VMware ESXi のインストールの場合、VM サービスコンソールに使用するネットワーク管理インタフェースを決定します。
VM サービスコンソールおよび管理インタフェースでは、ネットワークインタフェースが必要です。サービスコンソールは、最初に見つかった接続中のインタフェースを自動的に使用しません。このため、ネットワークインタフェースのデフォルトは vmnic0 に設定されており、インストール中にサービスコンソール用のネットワークインタフェースを選択する必要があります。
- VMware ESXi のドキュメントを準備し、このセクションで説明している手順と併せて使用できるようにしてください。VMware ESXi のドキュメントは、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できます

メディアによる単一システムへの VMware ESXi のインストール

このセクションでは、x86 (64 ビット) 版 VMware ESXi 5.0 および 5.0 Update 1 for x86 (64 ビット) ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

- 29 ページの「ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した VMware ESXi のインストール」

▼ ローカルメディアまたはリモートメディアを使用した **VMware ESXi** のインストール

次の手順では、VMware ESXi ソフトウェアをローカルメディアまたはリモートメディアからインストールする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから VMware のインストールメディアをブートすることを前提にしています。

- VMware ESXi 5.0 または 5.0 Update 1 の CD または DVD (内蔵または外付けの CD/DVD)
- VMware ESXi 5.0 または 5.0 Update 1 の ISO イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 - VMware の ISO イメージを使用して、リモートインストールを実行したり、インストール CD または DVD を作成したりできます。

1 インストールメディアをブートできることを確認します。

- ディストリビューション CD/DVD を使用する場合ローカルまたは外付けの CD/DVD-ROM ドライブに、VMware ESXi 5 ディストリビューションメディアのブートディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- ISO イメージを使用する場合、ISO イメージが使用可能で、ブートディスクイメージ (番号 1 が付いた CD、または DVD) が Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションで選択されている (「Devices」メニュー > 「CD-ROM Image」) ことを確認します。

インストールメディアを設定する方法の詳細は、[13 ページの「ブートメディアオプションの選択」](#)を参照してください。

2 サーバーをリセットするか、またはサーバーの電源を投入します。

例:

- ローカルサーバーの場合、サーバーのフロントパネルにある電源ボタンを (約 1 秒) 押してサーバーの電源を切断し、次に電源ボタンをもう一度押してサーバーの電源を投入します。
- Oracle ILOM Web インタフェースから「Host Management」 > 「Power Control」を選択し、次に「Select Action」リストボックスから「Reset」を選択します。
- Oracle ILOM CLI で「reset /System」と入力します
BIOS 画面が表示されます。



注-次のイベントがすぐに発生するため、次の手順では集中する必要があります。画面に表示される時間が短いため、メッセージを注意して観察してください。

- 3 BIOS画面で、**F8**キーを押して、**VMware**のインストールで使用する一時ブートデバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

- 4 「**Boot Device**」メニューで、最初のブートデバイスとして外付けまたは仮想**CD/DVD**デバイスを選択して、**Enter**キーを押します。

「Boot Device」メニューに表示されるデバイスの文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品ID文字列で構成されています。

数秒後、VMwareインストールプログラムのスプラッシュ画面が表示されます。

- 5 インストールを完了するには、**VMware ESXi 5**のインストールドキュメントを参照してください。

VMware ESXi 5.0 および 5.0 Update 1 のインストールドキュメントは、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html> から入手できます。

- 次の画面が表示されたら、ESXiソフトウェアをインストールするストレージドライブを選択します。



- VMware ESXiのインストールが完了したら、33ページの「VMware ESXiのインストール後タスク」に進みます。

VMware ESXi のインストール後タスク

VMware ESXi のインストールが完了したら、次に示すインストール後タスクを確認し、使用しているシステムで該当するタスクを必要に応じて実行します。

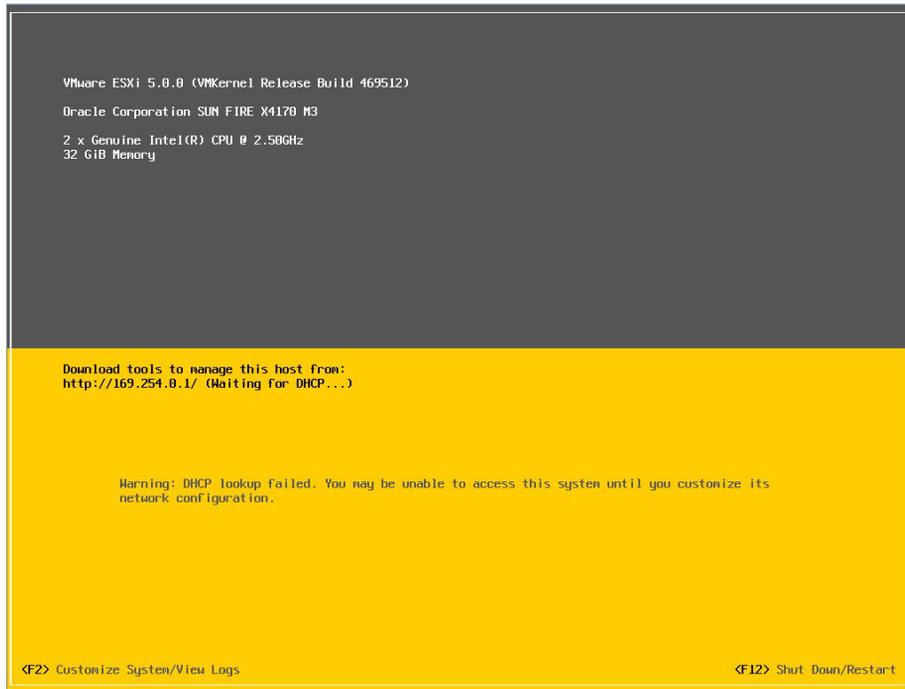
説明	リンク
ネットワークアダプタの構成。	33 ページの「ネットワークアダプタ設定の構成」
接続されているネットワークポートの MAC の確認。	35 ページの「接続されているサーバーネットワークポートの MAC アドレスの確認」
VMware ESXi ソフトウェアの更新。	36 ページの「VMware ESXi ソフトウェアの更新」
VMware ESXi リソースの管理。	36 ページの「VMware ESXi リソースの管理」

▼ ネットワークアダプタ設定の構成

注 - このタスクは、静的 IP アドレスを使用している場合にのみ必要です。DHCP を使用している場合、このタスクは必要ありません。

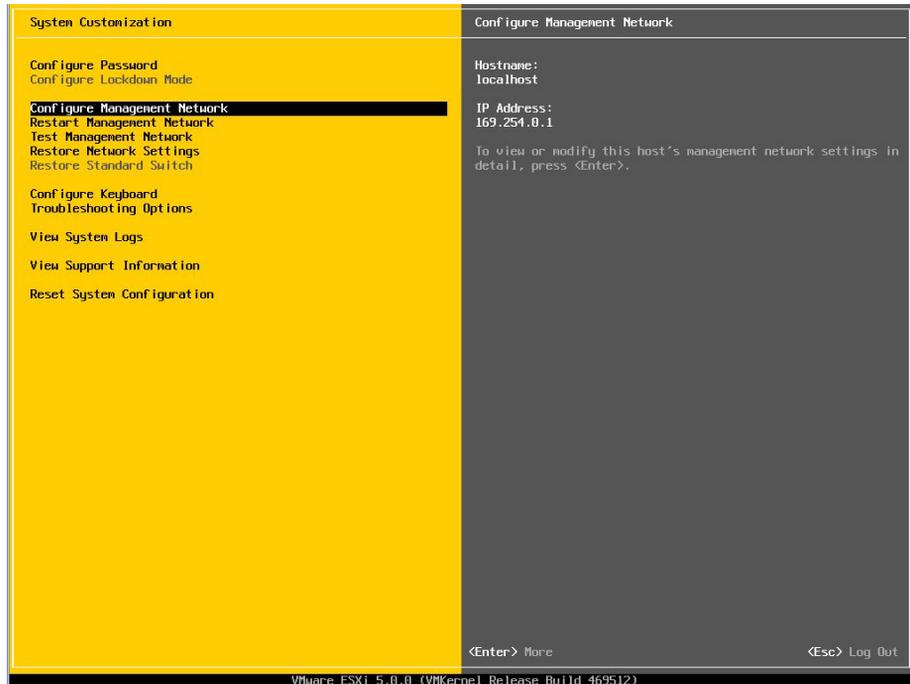
次の手順では、サーバーに取り付けられているネットワークアダプタを利用できるように VMware ESXi を設定する方法について説明します。これらの手順には、サーバーに取り付けられた各ネットワークアダプタの物理ポートの場所を検出する手順も含まれます。

- 1 VMware ESXi ソフトウェアのインストールが完了し、サーバーをリブートすると、次の画面が表示されます。



- 2 「Customize System/View Logs」を選択するには、F2を押します。
- 3 VMware ESXi Server にログインします。

- 4 「System Customization」ダイアログにアクセスし、「Configure Management Network」を選択します。



- 5 このタスクを完了するには、<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>にあるVMwareのドキュメントを参照してください。

▼ 接続されているサーバーネットワークポートのMACアドレスの確認

始める前に サーバーには、NET0、NET1、NET3、およびNET4の4つのネットワークポートがあります。このどれかのポートがネットワークに接続されると、VMware ESXiはそのポートにMACアドレスを割り当てます。

- 各サーバーネットワークポートのMACアドレスを確認するには、Oracle ILOM コマンド行インタフェース (CLI) で各サーバーネットワークポートに対して次のコマンドを入力します。

```
-> show /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_n
```

ここで、*n*は0、1、2、または3です

たとえば、サーバーネットワークポート `NET0` が接続されている場合、上記の CLI コマンドは次の出力を生成し、`mac_addresses` 欄に MAC アドレスが一覧表示されます。

```
-> /System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
/System/Networking/Ethernet_NICs/Ethernet_NIC_0
Targets:
Properties:
  health = OK
  health_details = -
  location = NET0 (Ethernet NIC 0)
  manufacturer = INTEL
  part_number = X540
  serial_number = Not Available
  mac_addresses = 00:21:28:3D:B7:96
Commands:
  cd
  show
->
```

注- 選択するネットワークアダプタが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

▼ VMware ESXi ソフトウェアの更新

VMware ESXi のインストールメディアには、最新バージョンのソフトウェアが含まれていない場合があります。必要に応じて、ESXi Server ソフトウェアを最新の更新およびパッチで更新します。

- ダウンロード手順については、次の **Web** サイトを参照してください。

<http://support.vmware.com/selfsupport/download/>

▼ VMware ESXi リソースの管理

VMware では、ESXi に関するドキュメントを提供しています。

- **VMware ESXi** リソースの構成と管理については、次で **VMware** のドキュメントを参照してください。

<http://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-esxi-vcenter-server-pubs.html>

ネットワークインタフェースの構成

このセクションでは、次の情報について説明します。

- [37 ページの「NIC コネクタ」](#)

NIC コネクタ

サーバーのネットワークインタフェースコネクタには、次のように物理的なラベルが付いています。

表1 NIC コネクタのラベル

NIC コネクタのラベル	インタフェースタイプ
net0	第1 NIC インタフェース (ixgbe0)
net1	第2 NIC インタフェース (ixgbe1)
net2	第3 NIC インタフェース (ixgbe2)
net3	第4 NIC インタフェース (ixgbe3)

注 - 単一プロセッサシステムでは、NET 2 および NET 3 は機能しません。

サーバーファームウェアとソフトウェアの入手

このセクションでは、サーバーのファームウェアとソフトウェアにアクセスするためのオプションについて説明します。

説明	リンク
サーバーファームウェアとソフトウェアのアップデートについて学びます。	39 ページの「ファームウェアとソフトウェアのアップデート」
ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプションについて学びます。	40 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション」
使用可能なファームウェアとソフトウェアパッケージを確認します。	40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」
Oracle System Assistant、My Oracle Support、または物理メディアのリクエストにより、ファームウェアおよびソフトウェアパッケージにアクセスします。	42 ページの「ファームウェアとソフトウェアへのアクセス」
ファームウェアとソフトウェアのアップデートをインストールします。	46 ページの「更新のインストール」

ファームウェアとソフトウェアのアップデート

ファームウェアとソフトウェア (サーバーのハードウェアドライバやツールなど) は定期的に更新されます。これらは、ソフトウェアリリースとして入手可能になります。ソフトウェアリリースは、サーバー用の使用可能なファームウェア、ハードウェアドライバ、ユーティリティをすべて含んだ一連のダウンロード (パッチ) です。これらすべては、まとめてテスト済みです。ダウンロードに含まれる ReadMe ドキュメントには、以前のソフトウェアリリースからの変更点および変更されていない点について説明されています。

サーバーのファームウェアとソフトウェアは、ソフトウェアリリースが入手可能になり次第、更新してください。ソフトウェアリリースにはしばしばバグの修正が含まれるため、更新により、サーバーソフトウェアと、最新のサーバーファームウェアおよびほかのコンポーネントのファームウェアとソフトウェアとの互換性が保証されます。

ダウンロードパッケージ内の ReadMe ファイルには、ダウンロードパッケージ内の更新されたファイル、および現在のリリースで修正されたバグに関する情報が含まれます。プロダクトノートには、サポートされるサーバーソフトウェアのバージョンに関する情報も含まれます。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセスオプション

次のオプションのいずれかを使用して、使用しているサーバーに対応した最新のファームウェアとソフトウェアを取得します。

- **Oracle System Assistant** – Oracle System Assistant は、出荷時にインストール済みの Oracle x86 サーバー用オプションで、サーバーのファームウェアとソフトウェアを簡単にダウンロードおよびインストールできます。

Oracle System Assistant の使用方法の詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **My Oracle Support** – すべてのシステムファームおよびソフトウェアは、<http://support.oracle.com> の My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support Web サイトで利用できるサービスの詳細については、40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

ソフトウェアリリースを My Oracle Support からダウンロードする手順については、42 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」を参照してください。

- **物理メディアのリクエスト (PMR)** – My Oracle Support から入手可能なダウンロード (パッチ) を含む DVD をリクエストできます。

詳細は、43 ページの「物理メディアのリクエスト」を参照してください。

入手可能なソフトウェアリリースパッケージ

My Oracle Support でのダウンロードは、プロダクトファミリー、製品、バージョンの順でグループ分けされています。バージョンには1つ以上のダウンロード (パッチ) が含まれます。

サーバーとブレードの場合、パターンは似ています。製品はサーバーです。サーバーごとにリリースセットが含まれます。これらのリリースは、実際のソフトウェア製品リリースではなく、サーバーの更新リリースのことです。これらの更新はソフトウェアリリースと呼ばれ、まとめてテスト済みの複数のダウンロードで構成されます。各ダウンロードには、ファームウェア、ドライバ、またはユーティリティが含まれます。

次の表に示すように、My Oracle Support には、このサーバーファミリー向けの同じダウンロードタイプのセットが含まれます。これらも、物理メディアのリクエスト

(PMR)を行なって依頼できます。Oracle System Assistant を使用しても、同じファームウェアおよびソフトウェアをダウンロードできます。

パッケージ名	説明	このパッケージをダウンロードするタイミング
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Firmware Pack	Oracle ILOM、BIOS、およびオプションカードファームウェアを含む、すべてのシステムファームウェア。	最新のファームウェアが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - OS Pack	OS Pack は、サポートされるオペレーティングシステムのバージョンごとに入手できません。各 OS Pack には、その OS バージョン用のツール、ドライバ、およびユーティリティのパッケージすべてが含まれます。 ソフトウェアには、LSI MegaRAID ソフトウェアが含まれます。 Windows OS の場合、この OS Pack には Intel Network Teaming and Install Pack も含まれます。	OS 固有のドライバ、ツール、またはユーティリティを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - All Packs	Firmware Pack、すべての OS Pack、およびすべてのドキュメントを含みます。 このパックには、Oracle VTS や Oracle System Assistant イメージは含まれません。	システムファームウェアと OS 固有ソフトウェアの組み合わせを更新する必要があるとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Diagnostics	Oracle VTS 診断イメージ。	Oracle VTS 診断イメージが必要なとき。
Sun Server X3-2 (X4170 M3) SWバージョン - Oracle System Assistant	Oracle System Assistant 復旧および ISO アップデートイメージ。	Oracle System Assistant を手動で回復および更新する必要があるとき。

各ダウンロードは zip ファイルで、ReadMe ファイル、およびファームウェアやソフトウェアファイルを含むサブディレクトリセットが格納されています。ReadMe ファイルには、前回のソフトウェアリリース以降に変更されたコンポーネントおよび修正されたバグの詳細が記載されています。

ファームウェアとソフトウェアへのアクセス

このセクションでは、ソフトウェアリリースファイルをダウンロードまたはリクエストする手順について説明します。

Oracle System Assistant を使用して、最新のソフトウェアリリースを簡単にダウンロードして使用できます。詳細は、『管理』の「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

更新されたファームウェアおよびソフトウェアを入手する方法は、ほかにも My Oracle Support を使用する方法と、物理メディアをリクエストする方法の2つがあります。参照先:

- 42 ページの「My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード」
- 43 ページの「物理メディアのリクエスト」

▼ My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード

- 1 次の Web サイトに移動します:<http://support.oracle.com>
- 2 **Sign in to My Oracle Support.**
- 3 ページ上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
「パッチと更新版」画面が表示されます。
- 4 「検索」画面で、「製品またはファミリー(拡張)」をクリックします。
画面に検索フィールドが表示されます。
- 5 「製品」フィールドで、ドロップダウンリストから製品を選択します。
あるいは、目的の製品が表示されるまで製品名のすべてまたは一部を入力します。例: サーバー。
- 6 「リリース」フィールドで、ドロップダウンリストからソフトウェアリリースを選択します。
- 7 「検索」をクリックします。
ダウンロードできるパッチが一覧表示されます。

入手可能なダウンロードについての詳細は、40 ページの「入手可能なソフトウェアリリースパッケージ」を参照してください。

- 8 ダウンロードするパッチを選択するには、そのパッチをクリックします (**Shift** キーを使用すると、複数のパッチを選択できます)。アクションパネルがポップアップ表示されます。ポップアップパネルには、「計画に追加」および「ダウンロード」オプションを含め、いくつかのアクションオプションがあります。「計画に追加」オプションの詳細は、関連するドロップダウンボタンをクリックして、「なぜ計画を使用するのですか。」を選択してください。
- 9 パッチをダウンロードするには、ポップアップアクションパネルの「ダウンロード」をクリックします。「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。
- 10 「ファイル・ダウンロード」ダイアログボックスで、パッチの **zip** ファイルをクリックします。パッチファイルがダウンロードされます。

物理メディアのリクエスト

Oracle の Web サイトからのダウンロードがプロセスで許可されていない場合は、物理メディアのリクエスト (PMR) から最新のソフトウェアリリースにアクセスできません。

次の表に、物理メディアをリクエストするためのハイレベルタスク、および詳細情報の入手先のリンクを示します。

説明	リンク
リクエストに必要な情報を収集します。	43 ページの「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」
オンラインまたは Oracle サポートに電話して物理メディアをリクエストします。	44 ページの「物理メディアのリクエスト (オンライン)」 45 ページの「物理メディアのリクエスト (電話)」

物理メディアのリクエスト用の情報を収集する

物理メディアのリクエスト (PMR) を行うには、サーバーの保証またはサポート契約が必要です。

PMR を実行する前に、次の情報を収集します。

- 製品名、ソフトウェアリリースのバージョン、および必須パッチを入手します。最新のソフトウェアリリースおよびリクエストしているダウンロードパッケージ(パッチ)の名前を知っていると、リクエストを実行しやすくなります。
- *My Oracle Support* にアクセスできる場合 - 42 ページの「[My Oracle Support を使用したファームウェアとソフトウェアのダウンロード](#)」の指示に従って、最新のソフトウェアリリースを確認し、入手可能なダウンロード(パッチ)を表示します。パッチのリストを表示したあと、ダウンロード手順を続行しない場合は「パッチ検索結果」ページからほかのページに移動できます。
- *My Oracle Support* にアクセスできない場合 - 40 ページの「[入手可能なソフトウェアリリースパッケージ](#)」の情報を使用して、必要なパッケージを確認し、そのパッケージの最新のソフトウェアリリースを要求します。
- 出荷情報を手元に用意します。リクエストの際に、連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所を入力する必要があります。

▼ 物理メディアのリクエスト(オンライン)

始める前に リクエストを行う前に、43 ページの「[物理メディアのリクエスト用の情報を収集する](#)」に記載された情報を収集してください。

- 1 次の Web サイトにアクセスします:<http://support.oracle.com>。
- 2 **My Oracle Support** にサインインします。
- 3 ページの右上の「問合せ先」リンクをクリックします。
- 4 「リクエストの説明」セクションに、次の情報を入力します。
 - a. 「リクエスト・カテゴリ」ドロップダウンメニューで、次を選択します。
ソフトウェアおよび OS メディアリクエスト
 - b. 「リクエスト・サマリー」フィールドに、次の内容を入力します: **Sun Server X3-2** の最新ソフトウェアリリースの **PMR**。
- 5 「リクエスト詳細」セクションで、次の表に示されている質問に回答します。

質問	回答
メディアの入手をご希望ですか。	あり
どちらの製品ラインのメディアをご希望でしょうか。	Sun 製品

質問	回答
パッチをダウンロードするためのパスワードに関する問い合わせでしょうか。	なし
CDやDVDでパッチをご希望ですか。	あり
パッチをCDやDVDでご希望の場合、パッチの番号、OSとプラットフォームをお知らせください。	希望するソフトウェアリリースのダウンロードごとに、パッチ番号を入力してください。
ご希望の製品名とバージョンをお知らせください。	製品名: Sun Server X3-2 バージョン: 最新のソフトウェアリリース番号 注 - Oracle では、VMware ESXi のダウンロードを提供していません。VMware ESXi のダウンロードは http://www.vmware.com/support から入手できます。
希望されているメディアのOSとプラットフォームをお知らせください。	OS固有のダウンロードをリクエストする場合は、ここでOSを指定します。システムファームウェアのみをリクエストする場合は、「一般」と入力します。
メディアに言語は必要ですか。	なし

- 6 出荷先担当者の連絡先、電話番号、電子メールアドレス、会社名、および出荷先住所の情報を入力します。
- 7 「次へ」をクリックします。
- 8 「ファイルのアップロード」の「関連ファイル」画面で「次へ」をクリックします。
情報を指定する必要はありません。
- 9 「関連ナレッジ」画面で、リクエストに該当するナレッジ記事を確認します。
- 10 「リクエストの送信」をクリックします。

▼ 物理メディアのリクエスト(電話)

始める前に リクエストを行う前に、[43 ページ](#)の「物理メディアのリクエスト用の情報を収集する」に記載された情報を収集してください。

注 - Oracle では、VMware ESXi ソフトウェアのダウンロードを提供していません。VMware ESXi のダウンロードは <http://www.vmware.com/support> から入手できます。

- 1 次の **Oracle Global Customer Support Contacts Directory** にある該当する番号を使用して、**Oracle** サポートに電話をかけます。
<http://www.oracle.com/us/support/contact-068555.html>
- 2 **Sun Server X3-2** の物理メディアのリクエスト (PMR) を行いたい旨を **Oracle** サポートに伝えます。
 - My Oracle Support から特定のソフトウェアリリースおよびパッチ番号の情報にアクセスできる場合は、この情報をサポート担当者に伝えます。
 - ソフトウェアリリースの情報にアクセスできない場合は、**Sun Server X3-2** の最新のソフトウェアリリースをリクエストします。

更新のインストール

次のセクションでは、ファームウェアとソフトウェアの更新をインストールする方法について説明します。

- 46 ページの「ファームウェアのインストール」
- 47 ページの「ハードウェアドライバと OS ツールのインストール」

ファームウェアのインストール

更新されたファームウェアは、次のいずれかの方法でインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center** - Ops Center Enterprise Controller で最新のファームウェアを Oracle から自動的にダウンロードすることも、Enterprise Controller に手動でロードすることもできます。どちらの場合も、Ops Center でファームウェアを1つ以上のサーバー、ブレード、またはブレードシャーシにインストールできます。
詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。
- **Oracle System Assistant** - Oracle System Assistant は、最新のファームウェアを Oracle からダウンロードしてインストールできます。
詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。

- **Oracle Hardware Management Pack** – Oracle Hardware Management Pack 内の fwupdate CLI ツールを使用して、システム内部のファームウェアを更新できません。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> で Oracle Hardware Management Pack ドキュメントライブラリを参照してください。
- **Oracle ILOM** – Oracle ILOM および BIOS ファームウェアは、Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用して更新可能な唯一のファームウェアです。
詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ilom31> の Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1 ドキュメントライブラリを参照してください。

ハードウェアドライバと OS ツールのインストール

Oracle Hardware Management Pack などの、更新されたハードウェアドライバおよびオペレーティングシステム (OS) 関連のツールは、次のいずれかを使用してインストールできます。

- **Oracle Enterprise Manager Ops Center**
詳細は、<http://www.oracle.com/us/products/enterprise-manager/044497.html> を参照してください。
- **Oracle System Assistant**
詳細は、『管理』、「Oracle System Assistant を使用したサーバーの設定」を参照してください。
- JumpStart、KickStart、第三者のツールなどの、その他の配備機構。
詳細は、オペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

索引

B

BIOS

- 出荷時デフォルトの確認, 20
- 設定, 19
- 設定の編集および表示手順, 20
- レガシーモードとUEFIモードの切り替え, 22

I

ISO イメージ

- VMware ESXi, 29
- 必要なドライバの追加, 25

M

- My Oracle Support, ソフトウェアリリース
パッケージのダウンロードに使用する, 42

O

- Oracle System Assistant, USB フラッシュドライブ, 16

R

RAID

- 構成, 26
- 構成の要件, 27
- RAID の構成, 26

S

- 「System Customization」ダイアログ, 35

V

VMware

- ドキュメントの Web サイト, 35
- ブートディスクイメージ, 29

VMware ESXi

- ISO イメージ, 29
- インストールオプション, 17
- インストール後タスク, 33
- 更新およびパッチ, 36
- サーバーの電源のリセット, 29
- サポートされているソフトウェア
バージョン, 11
- ソフトウェアの更新, 36
- ネットワークアダプタの構成, 33
- ネットワークインタフェースの構成, 37
- ネットワーク接続をサポートするように構成する, 24
- リソースの管理, 36

VMware ESXi ソフトウェア

- 単一システムのインポート, 28
- ローカルメディアまたはリモートメディアを使用してインストールする, 29

- VMware ESXi ハードウェア, ネットワーク接続をサポートするように構成する, 24

い

- 一時ブートデバイス, 指定, 30
- インストール, タスクマップ, 10
- インストールオプション, 単一サーバー, 18
- インストール後タスク, VMware ESXi, 33
- インストール先
 - オプション, 16
 - オプションの選択, 16
 - ファイバチャネル Storage Area Network (SAN) デバイス, 17
 - ローカルストレージドライブ, 17
- インストール方法, ブートメディアオプション, 13

こ

- 互換性のあるネットワークカード, インストール, 26
- コンソール表示オプション, 11

さ

- サーバー
 - 電源のリセット, 29
- サーバーの MAC アドレス, 確認, 35

そ

- ソフトウェア, リリースパッケージ, 40
- ソフトウェアリリースパッケージ, My Oracle Support を使用してダウンロードする, 42

た

- タスクマップ, 10

ね

- ネットワークインタフェース, 構成, 37

ふ

- ファームウェアとソフトウェア
 - アクセスオプション, 40
 - オンラインでの物理メディアのリクエスト, 44
 - 更新, 39
 - 更新のインストール, 46
 - ダウンロード, 42
 - 電話による物理メディアのリクエスト, 45
 - ハードウェアドライバや OS ツールのインストール, 47
 - 物理メディアのリクエスト, 43
 - 物理メディアのリクエストに必要な情報, 43
- ブートディスクイメージ, VMware, 29
- ブートデバイスメニュー, 選択, 30
- ブートメディア
 - オプション, 13
 - 選択, 13
- ブートメディアのインストール, 13

り

- リモートコンソール, 設定, 12
- リモートブートメディア
 - 設定, 14
 - 要件, 14

ろ

- ローカルコンソール, 設定, 12
- ローカルブートメディア
 - 設定, 14
 - 要件, 14